

どすこい、どすこい

正月も1月も後にして、何月何日何曜日と、畑に書かれているわけでもないのに、朝が来た夜が来た、あつたかいぞ寒いぞ、と暮らしています。

「歩く天気予報」とは、誰のことだったでしょう。このごろは、梢の先とか、若葉のヒゲとかに、そういうことはお願ひして、私らはお天気そのもののよう、ひょうひょうといきたいものです。

「野となり山となる」などとも書いていて、投げやりになっていると思われれば、それは違います。大切な1年を始めたと感じています。四股を踏むような感じが、とてもいいですね。昨冬体調を崩して以来、寒い夜はこたつで丸くなることを許された、ニャー公のかたわらで、お茶をすすりながら考えます。

ほとんど野になり山になり、メガソーラーなんかがあたりかまわず乱立したって、一厘、一輪は、残るでしょう。特別根性などなくたって、それらはどこまでも深く広くひたっていくのですから。私もまた、そんな鏡をのぞきこんでは、「まだ生きている」と喜び楽しむのを忘れては、元も子もないですよ。(晃)

残したいものは・・・

あつという間に過ぎた1月の終わりに、元研修生の翼君が、就農4年目の栃木県那須烏山から遊びに来てくれました。しばらく会わぬ間に、ぐっとたくましくなり、順調な営農生活の様子を聞かせてもらい、たのしい時間を過ごしました。写真を撮り忘れたので、あとで送ってもらった写真が、右。愛猫の「ねぎ」(うちのニャー公とそっくり)と愛鶏?の「ルッコラ」と一緒です。「耕吉」で検索すると、翼君のブログが出てきます。HP やフェイスブックもきれいでおもしろいです。

さて、野菜たちは、縮れたり、裂けたり、赤くなったり白くなったり、斑点ができたりしながら、寒さに耐えています。うまい、と思います。そんな野菜たちを横目に、雑草と言われるものたち(ほとけのぎ、とか、はこべとか)は、ビニールトンネルの中で、早くもこの世の春で、花を咲かせています。私たちの、そえる手は、何を守り何を失っているのか、と、迷いながら進みます。

この時期、一昨年は「原発」国民投票の町議会への請願のことで、昨年はTPP(環太平洋経済連携協定)のことで、生業と並行して、色々な作業をしていたことを思い出します。早いもので、3年目の「3・11」をもうすぐ迎えます。「3・11」がなければ、そんな作業をすることもなく、ただ畑に張り付いていたことでしょう。今年も、気持ちだけはそわそわ、頭もぐらぐらしていますが、作業的には、もう少し地に足の着いた、「イノシシ対策と身近な政治」なんてことが、生業と同時進行している課題です。今月やっと、地区住民と町担当者の懇談会が行われることになりました。

お任せするだけではなく、自分たちで解決するために、身近な人とつながりたいです。(泰子 2月3日記)

